



第42号
〈発行〉
日置地区
社会教育振興会
〈事務局〉
鹿児島教育
事務所

「平成」から「令和」へ 新時代の幕開け 社会教育振興会 総会開催

令和元年5月28日(火)、市来庁舎にて会長(田畑誠一市長)をはじめ、地区内の社会教育関係団体や学校、福祉、警察関係の会員が出席して令和元年度日置地区社会教育振興会総会が開催されました。

委嘱状交付の後、協議では平成30年度事業報告や決算、令和元年度事業計画や予算案、新役員等が承認されました。



田畑誠一会長

会長あいさつ
(一部抜粋)

令和という年号には、「明日への希望とともに一人一人が大きな花を咲かせる」という願いや「みんな仲良く」という思いが込められています。まさに本地区の目指すところではないかと思えます。今後も各種研修会等を通して本地区の住民一人一人が心豊かになっただけできるよう取り組んでいただけたらと思います。

★活動テーマ

青少年の健全育成及び生涯学習社会実現を目指す社会教育関係者の役割はどうあればよいか。

☆本年度の主な努力点

生涯学習の充実

- いもこじの発行(8・12・3月)
- 地区社会教育委員及び社会教育担当者研修会(6月27日)
- 地区公民館経営研究会(10月9日)
- 「子どもといっしょに読書の日」
- 「子ども読書の日」の取組
- 地区生涯学習推進大会(2月2日)
- 「地域学校協働活動」の推進
- 社会教育の充実
- 社会教育指導者の養成研修
- 人権教育ブロック別指導者研修会(7月6日)
- 青少年教育の充実
- ・ 地区子ども会大会、指導者・育成者研修会(12月7日)

- ・ 中央プロックJ・L及び高校生クラブ等交流大会(7月20・21日)
- ・ かごしま地域塾の展開
- ・ 家庭の教育力の向上
- ・ 生活習慣の確立
- ・ 地区PTA正副会長等研修会(7月6日)
- ・ 県PTA研究委嘱公開(11月30日)
- ・ おやじの会の充実・支援

文化財保護の充実

- 文化財少年団の支援
- 伝統芸能伝承活動の促進
- 文化財マップの配布



総会の様子

令和元年度新役員(敬称略)

- 会長 田畑 誠一 (いちき串木野市長)
- 副会長 徳留 敏郎 (鹿児島教育事務所長)
- 副会長 中木屋 豊 (地区社会教育委員)
- 監事 富永 貴広 (いちき串木野市PTA連絡協議会長)
- 監事 有村 孝 (いちき串木野市教育長連絡協議会長)
- 監事 中村 克己 (伊集院中学校長)

日和下駄

集うことの大切さ

いちき串木野市教育委員会
社会教育課長 梅北 成文

私は、社会教育課に配属2年目を迎えています。業務の一つに、社会教育関係団体の育成・支援があります。

今は、育成・支援の立場ですが、振り返ると、私は支援される側、即ち社会教育団体の活動にずっと関わってきました。青年団、PTA、子ども会育成会、公民館活動などです。中でも自分を成長させてくれたのは、青年団活動です。若い頃、初めは「青年団とかしたくない!」という気持ちしかなく、いやいや始めた青年団。先輩から説教や叱責されたりしながらも、次第に仲間と集う楽しさを共感し、いつしかのめり込んでいました。

入団して初めて盆踊りの舞台に立った時や、青年文化祭で演劇の舞台に立った時の緊張と充実感、私の原風景に近いものがあります。

今、青年団体や女性連、郷土芸能保存会など、多くの団体が活動や組織の存続に苦慮されている状況があります。時代の流れで仕方ないという声もありますが、そういう時代だからこそ、その流れに抗うことは必要だと思います。古臭い考えかもしれませんが、私が青年団活動を通して感じたような気持ちを一人でも多くの人に持つてもらえたら、活動の火は消えない。そんな思いを信じて、これからも社会教育団体の支援に取り組んでいきたいと思っています。

地域力を高める「せつぺとべ」

日置市教育委員会

6月第1日曜日、日吉地域では、「せつぺとべ」を観るために、市内外から多くの観客で賑わいます。

「せつぺとべ」は日吉地域特有の伝統行事で、白装束に身をまとった大人たち(せつぺとべ衆)が、精いっぱい田んぼを跳びはねることで、五穀豊穡を祈願するお田植え祭りとして、約400年の歴史をもつと言われています。

祭り当日、8つの地区から子供たちが中心となる「お田植え踊り」が、八幡神社と鬼丸神社に奉納されます。お田植え踊りには、虚無僧踊り・棒踊り・笠踊り・鎌踊りなど、それぞれの地区に伝えられてきた踊りがあり、せつぺとべ衆は、これらお田植え踊りの露払い役であり、踊り子たちのお守り役でもあります。

神社での奉納が終わると、それぞれ神社の御神田まで赴き、迫力ある「せつぺとべ」が始まります。

せつぺとべ衆も神社で踊る頃までは、あまりお神酒を飲んでいな



子供たちによるお田植え踊り奉納

御神田でのせつぺとべ



いたため、大人しくしていますが、御神田に来る頃には、お神酒の勢いもつき最高潮に達し、体じゅう泥まみれになり踊ります。御神田での披露が終わり、せつぺとべ衆を含む各地区の踊り手たちは、日吉地域内を一日かけて踊り続けます。

祭りの前日には「子どもせつぺとべ」の大会が、この大会は、「せつぺとべ」を子供たちに引き継ぎたいとの思いで、今年で11回目を迎えています。

この時ばかりは、泥遊びが公認となり、子供たちも体じゅう泥まみれになって、跳びはねます。



大人に負けず元気いっぱい跳びはねます

1年に1日だけ行われる「せつぺとべ」ですが、本番の日に向けて各地区においては、5月初旬から1か月余り、毎晩のように踊りの練習会

が行われます。

お田植え踊りは、小・中学生が主な踊り手として活躍しますが、どの地区も少子化に伴い、踊り手の確保が難しくなっており、小学1年生から参加しています。以前の踊り手は男子に限られていましたが、現在は女子も多くみられます。また、中学生は部活動の終了後、休むことなく練習に参加し、自分が学んできた踊りの仕草や足さばきを、丁寧に小学生に教えています。なお、ある地区においては、郷土出身者の子供たちが、地区外から参加し、活気を与えています。

練習会場の公民館等

には、踊りに必要な衣装や道具の準備を行う高齢者や、踊りの指導を行う青壮年部、食事の差し入れを行う女性部など、多くの方々が毎日のように集まり、子供たちの練習を見守っています。

「せつぺとべ」は、文化の伝承と故郷日吉を愛する青少年育成の一翼を担っているとともに、地域の人々にとっても「せつぺとべ」に関わり、絆が深まることで、「地域力を高める」地域づくり行事として、深く根差しています。

多くの見守りの中での練習



薩摩硫黄島のメンドン

ユネスコ無形文化遺産登録

5月27日(月)、文化庁で、ユネスコ無形文化遺産に登録された「薩摩硫黄島のメンドン」の認定書の伝達式が行われました。

「メンドン」は、旧暦の8月1・2日に島の男性が踊る「八朔太鼓踊り」に突如現れ、地域と人々の邪気を祓う「仮面神」です。天下御免の神の化身で、手に持った神木の枝で観客を叩き散らします。なにしろ「神」なので、文句も言えませんが、誰が入っているかの詮索も御法度。子どもたちにとって「メンドン」は怖い神でもあり、あこ



薩摩硫黄島のメンドン

がれの存在でもあるのです。

小さな三島村が、伝統芸能を継承していくことは、後継者不足など多くの問題を抱えています。しかし、今回、これまでの努力が世界に認められたことは、村民に大きな自信と勇気を与えてくれました。今後、更に地域と子ども会が協力しながら伝統文化を継承することの素晴らしさを伝え、三島村の島おこしにつながる取組を展開していきたいと考えています。

日本遺産（いちき串木野市） 薩摩の武士が生きた町 〜 武家屋敷群「麓」を歩く〜

日本遺産とは地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を伝える物語（ストーリー）を「日本遺産」として文化庁が認定するものです。

構成自治体は、本市をはじめ鹿児島県・鹿児島市・出水市・垂水市・薩摩川内市・南さつま市・志布志市・南九州市・始良市の1県9自治体で、令和元年5月20日に認定されました。

日本遺産認定に際しての物語（ストーリー）概要は、「勇猛果敢な薩摩武士を育んだ地、鹿児島。そこには、本城の鹿児島城（鶴丸城）跡や県内各地の山城跡の周辺に配置された麓と呼ばれる外城の武家屋敷群が今でも数多く残っています。麓は、防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城のように敵に備えた構造を持っていました。そこで武士たちは、心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。本城の鹿児島城跡や外城の武家屋敷群を歩けば、薩摩の武士たちの生き様が見られます。」



いちき串木野市の物語（ストーリー） 構成文化財一覧

① 串木野麓

武家屋敷群は、中世の山城の側に作られたものが多く、薩摩の山城は江戸幕府の一国一城令の後にも壊されることはありませんでした。串木野麓もその一つであり、美しい武家門や石垣、古い屋敷などが残っています。



串木野麓周辺

② 串木野城跡（亀ヶ城）



串木野城跡入口周辺

もともと串木野氏が居城していましたが、後に島津氏に治められることになり、島津四兄弟の一人である猛将と知られる島津家久が地頭として治めていた頃に串木野城下に麓集落が形成されました。また、家久の嫡男で、関ヶ原の戦いで島津義弘の影武者として戦死した、島津豊久の生誕の地といわれています。

③ 旧入来邸武家屋敷

旧入来邸は、本市における幕末頃の武家屋敷の基本となるものであり、大変貴重な歴史的な文化財です。また、庭木として植えられているイヌマキ（犬槿）及びゴヨウマツ（五葉松）も江戸時代頃と考えられ、市で最も古いものです。



武家門とイヌマキの古木

④ 地頭仮屋跡

地頭仮屋は、地頭が泊まり、職務をする場所です。地頭は実際に行くことを免除されていた遙任地頭が多く、郷の最高責任者ではあるが、鹿児島に居住し、年に数回来る程度でした。現在は、地頭仮屋跡として当時のままの石垣が残っています。

⑤ 串木野金山

薩摩藩による串木野での金山開発は、1660年頃、芹ヶ野で本格的に始められました。串木野金山の収益は、明治維新を牽引する薩摩藩の大切な財源でした。現在でも金の一部採掘及び製錬は続いており、今までの採掘量は全国4位です。

学びの風

十島村教育委員会

十島村では、生涯学習の推進を図るため七つの学校に社会教育学級を開設しています。各学校の教頭先生を学級主事として、一般の地域住民も対象にし、年間10回程度の講座を実施しています。

講師は、地域の住民であったり学校の先生であったり、時には島を訪れた大学の先生にお願いしたりしています。

村にはA・L・Tが配置されている学校があるので、A・L・Tを講師として楽しみながら英会話を学ぶこともあります。また、健康についても関心が高いため、日本赤十字社の医師が診療に訪れた機会を捉え、心肺蘇生法やA・E・Dの使い方について学ぶこともあります。

人権学習についても、人権問題を正しく理解し、人権尊重の重要性について正しい認識を持ったために必ず一回は学習しています。年間10回と少ない講座ですが、学級生の希望や必要とされる内容を考えながらより充実した講座となるように工夫・改善していきます。



心配蘇生法の講座

『免許返納後の生活』を考える 日置地区地域女性団体連絡協議会研修会

鹿児島教育事務所

6月25日(火)、日置市中央公民館で日置地区地域女性団体連絡協議会研修会を開催しました。両市から約60人が参加しました。

助け合う地域づくりを！

研修1では、日置市介護保険課の前田郁美さんより「免許証を返納した後

の生活」について講話がありました。高齢者の生活実態や地域ケア会議で明らかになった課題等が紹介されました。少子高齢化や財政状況から「共助」「公助」の大幅な拡充を期待することは難しく、「自助」



全体会の様子

「互助」の果たす役割が大きくなること、元気なうちから返納後の移動手段を考えておくこと、さらには孤立を防ぐ地域づくりの視点も必要である等の助言がありました。

研修2では、7、8人ずつ班に分かれ「免許返納で困ること」「返納までに準備できること」「女性団体として

ある班

は、免許を返納すると「病院に行けない」「買物がない」「等の不便を上げ、免許返納まで準備できるこ



活発な意見交換…見守り、声掛け…

として、「助け合う地域づくり、共同購入」、「元気なうちに脳トレ、貯筋運動をして備える」などが示されました。女性団体としてできることとして「免許証を返納した高齢者の孤立を防ぐために、見守りや声掛けが大事」等の意見が出されました。

全体会では各班の発表があり、今後

も行政と住民が連携して課題を解決することが大切であるということを確認しました。

いつか来る「その時」を、改めて考える機会となりました。

鹿児島地域文化財保護審議会委員 及び文化財行政担当者等研修会

鹿児島教育事務所

6月19日(水)、いちき串木野市中央公民館で開催しました。

地域の活性化を図る日本遺産

研修会では、いちき串木野市教育委員会文化振興係長濱田純一氏から「日本遺産の認定に向けた取組」について、地域の活性化を視野に入れた「串木野麓」の取組を紹介してくれました。

また、県文化財課の住吉啓三文化財主事、宮崎大和文化財研究員からは、県の文化財保護行政の説明や地区での取組について指導をいただきました。現地研修では羽島までバスで移動し、



薩摩藩英国留学生記念館

「薩摩藩英国留学生記念館」を見学しました。濱田純一係長の案内で当時の時代背景や歴史史料の説明を受けました。参加者は丁寧な説明に聞き入っていました。

た。地区の歴史を知る有意義な研修会となりました。

日置・鹿児島郡地区社会教育委員 及び社会教育担当者等研修会

鹿児島教育事務所

6月27日(木)、いちき串木野市いちきアクアホールで開催しました。

「地域学校協働活動」について

研修会では、社会教育課の橋口盛史社会教育主事の講義と、いちき串木野市立生冠中学校の池之上良和校長の事例発表がありました。



自校の取組を発表する池之上校長

生冠中でのコミュニティ・スクールを基盤とし、地域と学校が連携・協働した双方向的な取組は、他地域に大変参考となる発表でした。

持続可能な活動を！

分科会では6班に分かれて「地域学校協働活動を持続可能な活動」にするために」のテーマで研究協議を深めました。課題も明確になり充実した研修会になりました。

編集後記

本地区でも記録的大雨に見舞われました。「安全は自ら守る」という心構えを忘れないようにしたいものです。今年度も地域の方々の活動や社会教育関係の取組を積極的に発信していきます。

(事務局 田中)